

関西ペイント…ミドルクラス、レートカマー（中堅の遅参者）の意気込み

現在の関西ペイントは、出遅れを挽回すべく頑張っています。自らを「ミドルクラスのレートカマー（中堅の遅参者）」と位置づけて、再定義しています。自動車用塗料については、メーカーと共同で比較的早い時期に海外進出してきました。インドやアジア地域の事業は堅調で、あと数年で国内事業を上回る勢いです。しかし、関西ペイントが大きく飛躍するには、加えて他地域への進出や車用塗料以外の開発が不可欠です。世界の塗料大手は、欧州、米国、中国が中心に、各市場で既に一定の規模を持ち、高い収益性を誇っています。一方で、アフリカや中東といった地域はまだ未開拓で、大手の進出も遅れています。

そこで関西ペイントは、現在の市場規模は小さいが競争相手もそれほど多くなく、将来性を見込める中東やアフリカ地域に目をつけました。建築向け塗料は、国民の平均年間所得が1000ドル（約10万円）を超えると需要が急増し、2000ドル（約20万円）を超えるとモータリゼーションが始まって、自動車向け塗料の需要が増え始めると言われています。建築向けで事業基盤を構築できれば、その次に来る自動車向けの需要もそのまま取り込むことができます。アフリカ市場への進出は、すぐには収益や売り上げ拡大には結びつきませんが10年後が期待されます。

関西ペイントでは、地域の特性や事情を配慮した塗料の開発に余念がありません。下水道や排水設備が整わないアフリカの国々では、雨が降ると下水があふれ蚊が大量に発生します。これが、蚊が媒介する感染症マラリアの温床となるのです。ザンビアでは、毎年必ずとっていいほどマラリアが大流行しているそうです。幼児が感染すれば命にも関わるくらいマラリアの脅威は大きく、アフリカに住む多くの人々を悩ませる社会問題となっています。また、アフリカにおいては医療環境が整わない国々も多く、特有の感染症が多発している現状があります。この問題を解消するために、関西ペイントでは、「アンチ感染症プロジェクト」と銘打った企画を発足しました。住宅の壁に特殊な塗料を塗ることで、屋内に蚊を寄せつけなくするのです。関西ペイントでは、殺虫剤に使われるピレスロイド系化合物を含ませた特殊塗料を開発しました。さらにウイルスを不活性化する効果を持つ特殊塗料の発明にも成功しました。日本の漆喰に使われる消石灰を含み、室内を無菌状態に近づける試みです。エイズウイルス（HIV）感染者の多いアフリカの国々では、免疫力が低下したエイズ患者の生活環境の改善に役立つため、きっと重宝されることでしょう。アフリカの所得水準でも購入できるように、工夫を重ねています。

世界大手とは異なる手法で事業拡大を目指す関西ペイントですが、アフリカ・中東に勝機を見出すため、製品開発だけでなく合併会社の設立を次々と発表しています。アフリカや中東地域においても、世界大手の進出は時間の問題です。先行する関西ペイントは、大手が本格進出してくる前に事業基盤を固めることが急務なのです。そこで、2011年に買収した南アフリカ最大手のフリーワールド・コーティングス（現関西プラスコンアフリカ）を核に、ジンバブエ、ザンビア、コンゴ共和国と南アフリカを北上する形で事業を広げています。2016年においては、「ナイジェリアの現地塗料メーカーと合併会社を設立」「ケニアの塗料大手買収に向け合意」「トルコの塗料大手との出資交渉を開始」しました。中東地域でも最近買収したサウジアラビアのメーカーを軸に、プラント設備向けの工業用塗料を手がけています。

参考資料・関西ペイント(Wikipedia)・関西ペイントの「日本らしからぬ」国際戦略(日経ビジネスオンライン)・関西ペイントの設立(双日歴史館)